

原著 (Article)

相模原障害者殺傷事件の容疑者の精神鑑定を巡る視点

Some Aspects of Mental Appraisal for The Suspect of
Handicapped People Killing and Injury Incident in
Sagamihara

宮川 充司*
MIYAKAWA, Juji*

要 旨

日本の犯罪史上でも希な重度知的障害者施設を襲撃したテロ事件が起きた。その容疑者は、事件の5か月前の障害者殺害の予告により、13日間大麻使用障害で精神病院に措置入院となった。その措置入院時の診断大麻精神病（大麻使用障害）と、予測される公判維持のためになされる精神鑑定について、精神医学や臨床発達心理学の視点から検討した。

キーワード：相模原殺傷事件、知的障害者、テロ事件、精神鑑定、大麻使用障害

Key words : Killing and Injury Handicapped Incident in Sagamihara, Intellectual Disability, Terrorist Incident, suspect, mental appraisal, Cannabis Use Disorder

相模原障害者殺傷事件

2016年7月26日午前2時頃、神奈川県相模原市の社会福祉施設で、日本の戦後犯罪史上でも最悪の大量殺戮事件が起きた。深夜に侵入した犯人は、入所者を次々に刃物で襲い、わずか50分もの間に45人もの人を襲い、施設入所者19人が死亡、26人が重軽傷を負った。死亡した被害者は、41歳～67歳までの男性9人、19歳～70歳の女性10人であった。この施設には、当時149人の長期入所者がいて、9人の職員が当直だった。怪我をした被害者の中には、2名の施設職員が含まれていた。負傷者数は、後に容疑者に殴られた施設職員1名を加えて27名が負傷者に修正された。犯行の舞台となった社会福祉施設津久井やまゆり園は、運営を民間委託している神奈川県立の知的障害者の施設であった。ほとんどの被害者が首や頭、胸などを鋭利な刃物でメッタ刺しにされていた。当日から各マスコミが一斉に報道した、神奈川県相模原市の障害者施設を襲った障害者の大量殺戮事件である。事件関連の主な報道資料として、朝日新聞記事^{1)～14)}、毎日新聞^{16)～31)}、読売新聞^{33)～37)}のリストを示す。衝撃的な事件であるだけに、各新聞社は事件発生後数日間この事件の報道に多くの紙面を費やした。

侵入の手口が、またきわめて大胆粗暴で、警備が手薄になる深夜を狙って、施設の

裏口から1階の女性入所者の窓を持ってきたハンマーでたたき割って侵入。当日警備員1名が正門の守衛室にいたが、容疑者は裏門から侵入することにより、警備員の監視を交わした。監視カメラが設置されていたが、夜間は電源が切られていたということである。

あらかじめ用意した5本の刃物を使って、短時間のうちに夥しい犠牲者を殺傷していった。異変に気づいて駆けつけた職員は、容疑者が事前に用意した結束バンドで手や指を手すりに縛り付けられ、身動きできないようにされた。犠牲者は重度の障害者であった。しかも、その犯行は、この施設の元職員S（26歳）という驚くべき事件であった。こうした施設では、利用者の安全のためにホーム（区画）ごとに鍵が掛けられているが、それぞれの鍵を担当職員から奪い、短時間で施設内を移動し、短時間のうちに入所者を刃物で刺していった。ほとんどの被害者が、就寝中で身動きのできない状態であったので、大半が抵抗する間もなく殺傷されていった。犯行後、S容疑者はその足で、警察署に出頭、緊急逮捕された。持っていたカバンには血のついた包丁とナイフ3本が入っていた。犯行現場には2本の包丁が残されていた。また、駐車場においてあった容疑者の車の後部座席には血の付いた結束バンドが残されていた。

また、S容疑者が最初に侵入した棟の女性職員を刃物で脅し、連れ回したが、「この人は話せるか、話せないか」と容疑者から聞かれ、障害の重い人が狙われていると気づいた職員が、機転を利かせ「話せます。（障害は）軽いです」答えたことにより難を逃れた入所者がいたという⁹⁾。

犯行直後の2時50分頃に、容疑者はツイッターに投稿し、「世界が平和になりますように。beautiful Japan!!!!!!」と記載。赤いネクタイに白いワイシャツ、黒いスーツ姿で、口を半開きにし、少し固い笑みを浮かべて正面を向いた自撮り写真を掲載しているといったなんとも冷酷な犯行であった（朝日新聞2016年7月26日夕刊記事¹⁾）。所轄の警察に出頭10分前頃の投稿である。インターネットを利用した現代的な犯行声明といえるものである。

迷路のように鍵の掛かった扉で閉ざされている施設で、短時間のうちに多数の犠牲者が出たのは、この施設に約3年間勤務し5か月前に退職した、いわばこの施設の事情を知り尽くした元職員という特殊な条件のみではない。まさに、このS容疑者の抱えている精神病理的な状態から、短時間に多数の障害者を殺害できる手段が計画され、実行に移されたものと考えられる。

なお、毎日新聞7月27日夕刊7面¹⁸⁾に、2015年1月20日から犯行当日の7月26日まで、S容疑者のものと思われるツイッターの投稿記事が掲載されているので、資料1として掲載する。2015年1月20日の記事「(背中全面の入れ墨写真を掲げ) 会社にバレました。笑顔で乗りきろうと思います。25歳もがんばるぞ!!」は、背中中の入れ墨が、施設の職員に知られ注意を受けたということを記載しているが、さして悪びれた様子でもない。全体にきれいごとの表現で彩られており、これ以外は、前年10月30日までの記載は、さほど異常性は感じられない。6月29日の「結婚願望が芽生え

ている。いい男になろう！」などは、25歳の男性としてはむしろ正常な記載であろう。ところが、2016年のものとなると一変して、意味不明な記述を含む異様なものとなっていく。2016年2月13日の「正しいかどうかは分からないが、行動あるのみ。」は、事件の発端ともなる衆議院議長公邸を最初に訪ねる前日にあたる。2月15日（衆議院議長公邸に請願書ともいえる手書きの手紙を届けた当日に当たる。「イルミナティカード 津波原子炉は逆さまにすると3・11という数字が浮かび上がります。銀座崩壊は下の人間がオリンピック、黄人間の付近には5・11と浮かび上がります。禁止、皆さま5・11都内に外出する際にはくれぐれもご注意ください。」というメッセージは、統合失調症を思わせるような支離滅裂な文面で、「禁止、皆さま5・11都内に外出する際にはくれぐれもご注意ください」はもしかすると、その日に最初の犯行計画があったのかもしれないという程度のメッセージしか思わせない。ただし、後述するようにS容疑者にとって時期的に大麻を使用していた時期にあたるので、大麻を吸引している状態での投稿ではないかとも考えられる。したがって、この状態は統合失調症の症状というより、それに類似した「大麻使用障害」による可能性も考える方が自然であろう。5月9日の「鮫（サメ）は悲しげに見えました。ライオンは無気力に寝ていました。」は、もしかすると当日動物園にいった報告なのかもしれないが、それにしてもやや異様である。6月29日「酒は危険です。気をつけて下さい。New Japan Order I'm super happy!!」は、もしかすると飲酒（あるいはそれに加えて大麻吸引）で酩酊している状態での投稿かもしれない。犯行直後とされる7月26日（午前2時50分）の「世界が平和になりますように。beautiful Japan!!!!!!」は、この投稿自体が間違いなく異常である。

事件の予兆と措置入院

この事件には、前兆となる出来事があった。2016年7月27日付朝日新聞1面記事²⁾・同日毎日新聞¹⁷⁾、読売新聞³³⁾の記事によると、この事件の約5か月前の1つの予兆があった。当日の毎日新聞と読売新聞の記事に記載されている事件発生までの経緯を、資料2として示す。

2016年2月衆議院議長公邸をS容疑者が訪ね、手書きの手紙を手渡そうとするとところから始まる。この経緯は、7月27日付読売新聞3面記事「兆候数々凶行防げず」³³⁾が詳しい。

2月14日(日)、S容疑者は衆議院議長公邸を訪ねたが、警察官の職務質問に会い立ち去る。翌日2月15日衆議院議長公邸を再訪し、座り込む。衆議院事務局長が、大島理森議長宛の手書きの手紙を受け取った。

手紙には「私は障害者総勢470名を抹殺することができる」として、実際にこの事件となった施設ともう1施設をあげ「『作戦』として、夜間に事件を起こすことや結束バンドで職員の動きを封じること、事件後は自首する」、「私の目標は（複数の障害

がある）重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会的活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です」などと自分勝手な考えを示していた。請願文ともいえるこの手紙には、犯行予告のような内容が書かれていたために、警察に通報。警視庁から神奈川県警に対応が依頼されたと報道されている。

資料3として、2016年7月28日付読売新聞10面「検証・相模原19人刺殺事件」³⁴⁾に、衆議院議長宛の手紙がほぼ全文掲載されているので、一部編集（容疑者実名をS容疑者の記載とする等）して示す。手紙の内容は、前段の約1/3が、障害者抹殺を主旨とする請願文のようなものとも読み取れるものであるが、「常軌を逸する発言であることは重々理解しております。しかし、保護者の疲れきった表情、施設で働いている職員の生気の欠けた瞳、日本国と世界の為と思い、居ても立っても居られずに本日行動に移した次第であります」といった記述は、まるで決起文であるが、初めの「常軌を逸する発言であることは重々理解しております」という一文は、相手からみると異常であるという容疑者の自己認識能力が失われていなかったことを示すとも考えられるが、その内容自体が単なる思い込み信念というより、妄想的信念あるいは妄想と判断してよい内容に彩られている。

次の「Sの実態」では、「外見はとても大切なことに気づき、容姿に自信が無い為、美容整形を行います。進化の先にある大きい瞳、小さい顔、宇宙人が代表するイメージそれらを実現しております。私はUFOを2回見たことがあります。未来人なのかも知れませんが」という記述は、これも荒唐無稽・支離滅裂な内容であるが、統合失調症的な記述ととらえるか、大麻吸引状態での記載と考えるかは、検討の余地があるだろう。その後の「作戦内容」の記述部分「職員の少ない夜勤に決行致します。重複障害者が多く在籍している1つの園（津久井やまゆり、〇〇——原文は実名）を標的とします。見守り職員は結束バンドで見動き、外部との連絡をとれなくします。職員は絶対に傷つけず、速やかに作戦を実行します。2つの園260名を抹殺した後は自首します」といった記述は、まさに犯行予告であり、また実際に5か月後にほぼその通りに実行されてしまったとも判断できるので、その後の措置入院に関する対応策について議論を呼んでいるわけである。逆にいえば、この内容は少なくとも5か月以上持続されていたことになるので、大麻による一過性の自己肥大状態ではなく、まさに「妄想」そのものと捉えるか、それよりは緩やかな妄想的信念とするかであろう。

「逮捕後の監禁は最長で2年までとし、その後は自由な人生を送らせて下さい。心神喪失による無罪。新しい名前（伊黒崇）本籍、運転免許証等の生活に必要な書類。美容整形による一般社会への擬態。金銭的支援5億円。これらを確認して頂ければと考えております。ご決断頂ければいつでも作戦を実行致します。」

この部分が、身勝手な要求というようにマスコミで記述された部分であるが、妄想の内容が自己肥大的な妄想ととらえると、十分理解できる範囲である。名前を変えるなどの国による保護を求めているが、多分に神戸連続児童殺傷事件の少年Aの更正に対して行政が採った措置を意識しているようにも読み取れる。ただ、犯行時14歳の

少年事件であった元少年Aに対するものと、犯行時26歳の成人であったS容疑者の処遇とはなり得ないものであることに気づいていない異常状態の要求内容であることに十分注意を払うべきだろう。

S容疑者は、2012年12月から同施設に勤務していたが、その衆議院議長公邸を訪れた3日後の2月18日、施設の関係者に「重度障害者の大量殺人は、日本国の指示があれば、いつでも実行できる」などと話したため、翌19日に退職願を出させ、即日通告を受けた相模原市は精神保健福祉法に基づいて措置入院させた。この措置入院時の診断は、2016年7月29日付毎日新聞23面記事「ヒトラー思想が『降りてきた』」²¹⁾によると、「大麻精神病」と「妄想性障害」という診断名だった。措置入院の翌日2月20日に、「ヒトラーの思想が2週間前に降りてきた」と病院のスタッフに話し、ナチスの障害者大量虐殺を肯定する発言があった。入院中の尿検査と血液検査から大麻を使用していたことが判明して、この診断と措置入院となった。その後の3月2日に「入院前の自分はおかしかった」と反省したような発言が見られたために、大麻による症状が改善されたとして、病院から相模原市に対し「症状消退届」が出だされ、市外の家族と同居することを条件に3月2日に医師の判断で退院させたという(2016年7月28日付毎日新聞記事27面「凶行『絶対許せない』」¹⁹⁾による)。香山(2016)によると、警察官通報による緊急措置診察では「躁病」、その後2名の医師による措置診察では1名の医師が「大麻精神病」「非社会性パーソナリティ障害」、もう1名は「妄想性障害」「薬物性精神病性障害」という診断であったという。大麻精神病も薬物性精神病性障害はほぼ同一のこととして、非社会性パーソナリティ障害は妄想性パーソナリティ障害を想定していると考え、妄想性障害との差は妄想と捉えるか妄想的信念と捉えるかの差であろう。

病院によるこの判断とその後の対応措置が適切であったのかという点については、後に議論を呼ぶことになった。おそらくこの短期の措置入院とその退院判断は、担当医師が主として大麻による精神症状、すなわち物質・医薬品誘発性精神病性障害と見ていたからであろう。ただし、退院時の市外にいる家族と同居するという条件と、治療のための継続的通院という条件は結果として守られなかった。また、2016年8月3日付毎日新聞27面記事「容疑者に生活保護」³⁰⁾によると、措置入院を担当する精神保健福祉課の職員が措置入院以後のケア対象としなかった上、十分な確認をしなかった。また、失業中のS容疑者が3月24日に申請した生活保護の書類を受理し、生活扶助費を支給することにした。ただし、翌4月から雇用保険の受け取りが始まったために打ち切られたという。

事件後、直ちに厚生労働省はこの事件の再発防止策検討チームを設置し、事件の真相究明、施設の安全対策の強化、措置入院後のフォローアップ等について検討に入った(香山, 2016)。

S 容疑者の生い立ち

この S 容疑者の生い立ちと精神状態について、週刊朝日2016年8月12日号の関連記事¹³⁾は、記している。この記事には、犯行に至るまでの S 容疑者の青年期の発達の特徴や、精神状態を鑑定するのに重要な手がかりが友人たちの取材証言を通して含まれているので、冗長さを恐れずに抜粋引用する。また、その概要を資料4として示す。

S 容疑者は、1990年1月生まれ、父親は東京都の小学校の図工教師、母親は漫画家。1歳のころに東京都内の団地から移り住み、相模原市立小中学校の出身で、周囲の友人たちは普通の明るいやつという印象をもっていた。同級生のバイク仲間は、「人を笑わせるのが大好きで常にムードメーカー。お笑い芸人みたいに体を張る感じのノリで。いきなりバーンと倒れてみせたり、ヘンな顔をみせたりして、面白いヤツだった」とふり返る。中学時代は熱心なバスケットボール部員で、勉強もできる方だったという。後輩の一人は、「人気はあったけど、結構ワルだった。すごく不良というわけではないけど、キレたら怖い。机や椅子を蹴るとか、とにかく物に当たり散らし、手が付けられなくなる凶暴さが怖かった」と、S 容疑者の別の側面に触れている。

その後、八王子市の私立高校に進学。高校でもバスケ部に入部し、友達も多かった。高校時代の友人は、「明るい性格で、女の子にもわりとモテていた」。別の同級生も「勉強しないから、成績はよくなかった。けど、やればできるんです。大学受験は無理って話だったけど、直前はかなり勉強して大学には現役で合格した」という。

親子関係でも変わった様子は見られない。2008年3月、高校の卒業式の日には SNS のミクシィにこう書き込んでいる。

〈今日母さんの怒鳴り声で8時に起きた 下手すれや卒業式でれなかったあ 母さんありがとう〉

幼馴染の友人はこう話す。「Sはお母さんっ子で、誕生日にプレゼントを買ったりしていた。お父さんにはよく叱られるようで、悪口しか聞いたことがない」

同じ日のミクシィには、〈Sと仲良くしてくれた全ての人々に感謝です〉との書き込みもあった。

明るくひょうきんなキャラで、多少はワルぶっていても快活な少年……そんな人物像がうかぶ。(pp. 20-21)

同じように S 容疑者の高校時代のバスケット部の友人に取材したサンデー毎日2016年8月14日・21日号の記事²²⁾によると、「俺たちは高校の時からたばこを吸っていたんですよ。だけどあいつは吸わないんだ。別にいじめられていたわけじゃないけど、下っ端という感じだった」(p. 19) と、S 容疑者のまじめな側面を示しているような印象が見受けられる。

幼児期児童期の様子を記載した情報がないが、中学の後輩の一人が語る S 容疑者のキレやすい特性のみが、唯一特異な特性といってもよいもので、友だちづきあいもよく、それ以外は青年期前期（中学・高校生の時期）については、特に発達の異常を思わせる兆候は見られていない。

高校卒業後、中堅の私立大学の教育学部に進学、初等教育を目指す。大学1年の夏頃には、学童保育の指導員補助のアルバイトを始める。ミクシィにも〈教師になるためにはとても良い経験になるので頑張ります〉と意気込みを綴っている。その学童保育のアルバイトは3年生の終わりまで続けた。

ある友人は S 容疑者から「バイトの最終日に子どもと別れる時は泣いた」とのメールを受け取ったという。

その一方で、大学進学後、行動が無軌道になり、別人のように性格にも変化がみられていく。夜のクラブに遊びに行くようになり、酒を飲んでナンパしていた。

相模原市と八王子市の都県境にある大垂水峠を舞台に、バイクの少年たちが、車の前後を挟み撃ちにして、車からドライバーを引きずり出して暴行や恐喝をくり返す事件が頻発した。バイク仲間だった中学の同級生「仲間10人くらいが警察に逮捕されて、少年院に入ったヤツもいましたが、Sはおとなしいほうで率先してやるタイプではなかった。グループ内では下っ端でした」

大学2年となった頃、入れ墨に傾倒し始める。肩のワンポイントから腕、太腿、背中と徐々に広がり、小学校教諭を目指す学生にはありえない姿に変容していく。

ある友人が明かす。「相模原市内の彫り師のところへ行き始めて興味を持ったようです。般若を入れると言うので、『学校の先生になるヤツが入れ墨はまずいだろう』って注意したら、『彫り師としてやっていく』と言い出し、入れ墨を彫る機器まで買い揃えた。何を考えているのかと思った。」

正確な時期は不明だが、入れ墨の次は、薬物にはまっていく。危険ハーブに始まり、大麻使用へとめり込んでいく。

行き当たりばったりの生活に大麻や薬物が加わる。

ある友人はこう話す。「好きだったのは脱法ハーブ（危険ハーブ）。いろんなのを試しては『これは決まるな』『こっちはハイになれる』とか解説していました。印象に残っているのは、相模原のクラブ。ハーブ吸って、ハイになって、脱ぎ始めて。ビール片手にテーブルから大勢のお客のいるところにダイブ。お客の服がびしょ濡れになってブーイングでしたが、本人は全く意に介さなかった。その後、脱法ハーブが規制されてみんなが避けるようになって、バレないからって続けていました」（週刊朝日2016年8月12日号、p. 23）

大学4年生だった11年には5月末から約1カ月、母校の小学校で教育実習をした。

友人の懸念どおり、水泳の授業で入れ墨を隠すのに腐心し、スイムスーツを着て全

身を隠した。子どもと触れ合えたことはうれしかったらしく、ミクシィにはこんな書き込みがつづく。

〈心がポカポカになるエピソードがいっぱいあります〉〈(お別れ会で)手紙やプレゼントをもらい とても満足しています〉

〈教員採用試験の受付けがとつくのとうに終わっていたので今年教師になれる可能性は0になりました〉(pp. 20-21)

遅れて出現した反抗期のような傾向が青年期後期(大学生)になってどっと吹き出したかのような無軌道振りである。荒手の暴走族のメンバーに加わり、入れ墨を入れ始める。教員養成の学部にいる学生としては、この入れ墨は致命傷となる。入れ墨をした人間をわざわざ都道府県が教員として採用するかといえば、答は否であろう。髪の色着の類いとはことなり、それは簡単に消すことができない背中一面の般若の入れ墨であった。また、それは教員採用どころか、教育実習の受け入れまで及ぶマイナスの重大事項である。青年期特有の一時的な衝動、あるいは一時的な反抗や自己主張の結果としても、余りに大きな代償を支払わなければならない行為であったが、それを何よりもわかっていたのは小学校教員であった父親自身であったと考えられる。当然、親子で大きな軋轢を生むことになったと推定できるが、正確な時期といった詳細は不明だが、この頃両親だけが都内のマンションに転居し、Sだけ一人暮らしとなる。ただ、この一人暮らしは、S容疑者の無軌道振りはさらにエスカレートしていった。

また、大学4年の教育実習は、明日の教員をめざす学生の養成のために、ほとんど無償で学校現場が門戸を開いているものだが、基本は教育実習を行った学生は教員採用試験を受験することが義務のようになっている。ちなみに神奈川県・相模原市の教員採用試験の願書提出時期は、例年5月上旬から5月中旬であり、この年は5月6日～20日であった。教育実習が始まる前に応募期間は終了している。教員採用試験願書を出し忘れたというのは、何らかの事情で教員採用試験を受けたくない学生が、よく使う口実であるので、あるいはこれは虚偽の言い訳であったかもしれない。ただし、言葉通り本当に忘れていたことも、この行き当たりばったりで衝動的特性を持っていたと推定されるS容疑者にはあったかもしれない。

大学卒業後、清涼飲料を扱う運送会社に入社、数カ月後退職。

その後、2012年9月住居近くにある津久井やまゆり園を運営する「かながわ共同会」の採用試験に合格し、12月から非常勤職員として雇用され、翌4月から正規の常勤職員として雇用されることになる。重度の知的障害者の食事や入浴、排泄などの介助をする仕事だった。この職場が、結果として極めて希な凶悪事件の舞台となることなど、善意で雇用した施設の運営者には予測しようもないことであったことであろう。

資料4に記載の通り、生い立ちに関わるジャーナル記者の情報源は、ほとんど近隣の住人とS容疑者の友人たちによるもので、学校の教師や両親による情報が記載されていないため、幼児期や小学生の頃の様子が不明である。確信は持てないが、青年期後期になって急激に社会からの逸脱や反社会的な行動の背景には、単純な大麻使用障

害といった薬物中毒の症状によるとは考えにくい。危険ハーブや大麻の使用といった反社会的行動以前に、暴走グループへの加担や入れ墨への傾倒といった社会的離脱や反社会的行動の出現がそれでは説明できないからである。

青年期の精神科臨床や心理臨床に関わる専門家は、経験的によく知っていることでもあるが、青年期のある時期に急激にまるで全く別のパーソナリティに変わったような重大な精神疾患が発症することがある。統合失調症がその典型的な精神疾患の一つであるが、渡部（2015）が指摘するように、その発症は妄想・幻覚といった定型的な陽性症状で始まるのではなく、不安・抑うつ・イライラといった非特異的症状で始まるので、初期症状でこの疾患を見極めるのは大変難しい。前述した週刊朝日2016年8月12日号の記事¹⁶⁾の中で、精神科医の岩波明氏が「前触れなく発症する精神疾患か」（p. 24）の中で、S容疑者について妄想性障害や大麻精神病以外に、統合失調症の可能性を指摘している。これだけの重大犯罪を引き起こした容疑者が、重篤な精神疾患の発症とそれによる大きなパーソナリティ変容なしに犯行を行ったとは考えにくいからである。

犯行動機に関わるS容疑者の妄想内容、重度の（知的能力障害）障害者は生きている価値がない、抹殺した方が人類のためであるといった社会的弱者に向けられた虐殺妄想と、それを実行しても自分は罪が問われないといった自己肥大妄想が症状の中核をなしているが、それらの妄想から統合失調症以外にも類似した統合失調症様障害、妄想性障害、双極性障害（特に躁病エピソードが中心的双極Ⅰ型障害）、あるいは大麻使用障害・大麻中毒に起因する妄想または幻覚を発症させた物質・医療品誘発性精神病性障害などが、DSM-5（American Psychiatric Association, 2013/2014）の枠組から推定できるのではないだろうか。ただ、このS容疑者の精神症状が、大麻使用障害ないし物質・医療品誘発性精神病性障害で説明がつくかどうかは、疑問が残る。

他に、自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如・多動症（ADHD）を背景に持っている子どもが青年期になると、上記のような併存症や二次障害として複雑な精神症状を生じやすいことは良く知られている。とりわけ、対人的共感性と社会性に大きな障害をもつ自閉スペクトラム症に二次障害として児童虐待とその後遺症が加わった事例の中に、青年期以降、残虐で猟奇的な殺人事件にまで到る事例がある（宮川、2016）。それは、自閉スペクトラム症に限らず、むしろ注意欠如・多動症－犯行挑発症－素行症－反社会性パーソナリティ障害－重大犯罪といった古くから論じられてきた連続性の問題がある。それは、幼児期・児童期に神経発達症の診断がなされた事例ばかりではなく、むしろその所在に気づかれずに青年期になって、その神経発達症の症状が表面化する事例やその神経発達症の症状は表面化せず、別の併存症の症状が表面症状として出てくる事例もある。自閉スペクトラム症の場合は重ね着症候群（衣笠、2014）と呼ばれるが、注意欠如・多動症を背景にもつ類似した症例もあり、それを仮に「隠れADHD」と呼んでみた（宮川、2017）。このS容疑者の場合、可能性としてありえるのは、社会性があるが行き当たりばったりで衝動的なところから、注意欠

如・多動症，暴走グループへの加担，入れ墨，大麻といった薬物使用といった反社会的な行動を考えると反社会性パーソナリティ障害と，双極Ⅰ型障害，大麻使用障害といった複雑な併在症の可能性も考えられるのではないだろうか。また，妄想性障害または妄想性パーソナリティ障害も併在症として考えられるのではないだろうか。ただし，S容疑者については，既に鑑定留置に付されており（朝日新聞2016年9月22日31面記事）¹²⁾，その場合刑法第39条の「心神喪失又は耗弱状態」かどうか，もっと直接的には犯行時に統合失調症の症状があり善悪の判断がつかなかったかどうかのいわゆる刑法上の責任能力の有無に鑑定上の関心に集約されるので，こうした詳細な側面での鑑定はなされないだろうと推定されるが，予防的観点からの特殊事例の検討という側面からは十分必要性が高いといえるのではないだろうか。

資料1 S容疑者のものとみられるツイッターの主な内容

毎日新聞2016年7月27日夕刊7面記事から抜粋編集

〈2015年〉

- 1月20日 （背中全面の入れ墨写真を掲げ）会社にバレました。笑顔で乗りきろうと思います。25歳もがんばるぞ!!
- 2月20日 神様ありがとうございます。人生の大きな山場を1つ越えました。
- 4月26日 思い出を残したいと思っています。人生は全てが経験となり今の全てに感謝するべきだと思いました。
- 6月9日 偏見を持つことは愚かなことです。自分で作った世界観しか見えなくなる。勉強になりました。私も強く逞（たくま）しく生きたい。
- 6月29日 結婚願望が芽生えている。いい男になろう！
- 7月26日 1人ひとりが主人公だ。高い目標に向かって生きる人間は格好いい！ 世界を見る人間は閃（ひらめ）きが違う！ 尊敬できる人間の感情を共感したい，理解したい，だから自分も上に進みたいと思う。
- 10月30日 心技体の充実。これを目標に生きよう。

〈2016年〉

- 2月13日 正しいかどうかは分からないが，行動あるのみ。
- 2月15日 イルミナティカード 津波原子炉は逆さまにすると3・11という数字が浮かび上がります。銀座崩壊は下の人間がオリンピック，黄人間の付近には5・11と浮かび上がります。禁止，皆さま5・11都内に外出する際にはくれぐれもご注意ください。
- 2月19日 会社は自主退職，このまま逮捕されるかも……
- 5月9日 鮫（サメ）は悲しげに見えました。ライオンは無気力に寝ていました。
- 6月29日 酒は危険です。気をつけて下さい。New Japan Order I'm super happy!!
- 7月22日 ポケモンGOが大ヒットしているそうです。my name is S.
- 7月26日 （午前2時50分）世界が平和になりますように。beautiful Japan!!!!!!

資料2 事件発生までの経緯

2016年7月27日毎日新聞3面記事と讀賣新聞3面記事から編集，石川（2016）から補筆

〈2012年〉

- 4月1日 民間企業に就職，数か月後退職

- 12月1日 S 容疑者が津久井やまゆり園で非常勤職員として働き始める
(2013年)
- 4月1日 津久井やまゆり園の常勤職員になる
(2015年)
- 6月28日 JR 八王子駅前で酔って絡んできた男性に友人とけがをさせたとして、後に傷害容疑で書類送検
- (2016年)
- 2月14日 衆議院議長宛の手紙を議長公邸に持参したが、警察官に職務質問され立ち去る
- 2月15日 議長公邸を再訪し、座り込む。衆議院事務局長が手紙を受け取るが、犯行予告のようなものであったため、警察に通報。警視庁から神奈川県警に対応を依頼
- 2月18日 園で同僚に「重複障害者は生きていても意味がない」などと発言。同僚が津久井署に相談
- 2月19日 津久井署員が園でS容疑者を聴取、「重度障害者の大量殺人は日本国の指示があればいつでも実行する」などと発言したため、精神保健福祉法に基づいて相模原市へ通報する。市は精神保健指定医1人に診察させ、緊急措置入院を決定。園を「自己都合」で退職。
- 2月22日 指定医2人が「大麻精神病」などと診断。尿検査で大麻の薬物反応が検出され、市は措置入院を決定
- 3月2日 指定医1人が症状が消えたなどと判断、市が退院を決める
- 3月24日 外来受診
- 3月31日 外来受診、抗うつ剤1週間分投薬（主治医退職）
- 5月24日 外来予約キャンセル、予約日変更
- 6月28日 外来予約キャンセル
- 7月25日 駐車を巡るトラブルで110番され、昼になって車を受け取りに現れる
- 7月26日 事件発生、殺人未遂容疑などで逮捕

資料3 S容疑者が衆議院議長に宛てた手紙（抜粋）

読賣新聞2016年7月28日10面記事から一部編集

衆議院議長 大島理森様

この手紙を手にとって頂き本当にありがとうございます。

私は障害者総勢470名を抹殺することができます。

常軌を逸する発言であることは重々理解しております。しかし、保護者の疲れきった表情、施設で働いている職員の生気の欠けた瞳、日本国と世界の為と思い、居ても立っても居られずに本日行動に移した次第であります。

理由は世界経済の活性化、本格的な第三次世界大戦を未然に防ぐことができるかもしれないと考えたからです。

障害者は人間としてではなく、動物として生活を過しております。車イスに一生縛られている気の心な利用者も多く存在し、保護者が絶縁状態にあることも珍しくありません。

私の目標は重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会的活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です。

重複障害者に対する命のあり方は未だに答えが見つかっていない所だと考えました。障害者は不幸を作ることしかできません。

戦争で未来ある人間が殺されるのはとても悲しく、多くの憎しみを生みますが、障害者を殺すことは不幸を最大まで抑えることができます。

今こそ革命を行い、全人類の為に必要不可欠である辛い決断をする時だと考えます。日本国が大きな第一歩を踏み出すのです。

私が人類の為にできることを真剣に考えた答えでございます。

どうか愛する日本国、全人類の為に余力添え頂けないでしょうか。何卒よろしくお願い致します。

文責：（S 容疑者実名）

S（S 容疑者実名）の実態

私は大量殺人をしたいという狂気に満ちた発想で今回の作戦を、提案を上げる訳ではありません。全人類が心の隅に隠した想いを声に出し、実行する決意を持って行動しました。

今までの人生設計では、大学で取得した小学校教諭免許と現在勤務している障害者施設での経験を生かし、特別支援学校の教員を目指していました。

9月車で事故に遭い目に後遺障害が残ри、300万円程頂ける予定です。そのお金で株を購入する予定でした。

外見はとても大切なことに気づき、容姿に自信が無い為、美容整形を行います。進化の先にある大きい瞳、小さい顔、宇宙人が代表するイメージそれらを実現しております。私はUFOを2回見たことがあります。未来人なのかも知れません。

今回の話とは別件ですが、耳を傾けて頂ければ幸いです。

精神薬を服用する人は確実に頭がマイナス思考になり、人生に絶望しております。心を壊す毒に頼らずに、地球の奇跡が生んだ大麻の力は必要不可欠だと考えます。

作戦内容

職員の少ない夜勤に決行致します。

重複障害者が多く在籍している2つの園（津久井やまゆり、〇〇——原文は実名）を標的とします。

見守り職員は結束バンドで見動き、外部との連絡をとれなくします。

職員は絶対に傷つけず、速やかに作戦を実行します。

2つの園260名を抹殺した後は自首します。

作戦を実行するに私からはいくつかのご要望がございます。

逮捕後の監禁は最長で2年までとし、その後は自由な人生を送らせて下さい。心神喪失による無罪。

新しい名前（伊黒崇）本籍、運転免許証等の生活に必要な書類。美容整形による一般社会への擬態。

金銭的支援5億円。

これらを確約して頂ければと考えております。

ご決断頂ければいつでも作戦を実行致します。

日本国と世界平和の為に、何卒よろしくお願い致します。

資料4 S 容疑者の生い立ち

週刊朝日2016年8月12日号とサンデー毎日2016年8月14日・21日合巻号
と今西（2016）の記載事項から抜粋編集

1990年1月 東京都内の団地で生まれる。父親は小学校の図工教師。母親は漫画家のキャリアを持つ。

1991年1月 家族で相模原市の一戸建て住宅に転居

（幼児期・児童期の記載情報なし）

1996年4月～2002年3月 小学校

2002年4月～2005年3月 中学時代

周囲の友人「フツウの明るいヤツ」「熱心なバスケット部員で、勉強もできるほうだった」
後輩「人気はあったけど、結構ワルだった。すごく不良というわけではないけど、キレたら怖い。机や椅子を蹴るとか、とにかく物に当たり散らし、手がつけれなくなる凶暴さが怖かった」

2005年4月～2008年3月 高校時代

友人「明るい性格で、女の子にもわりとモテていた」
別の同級生「勉強しないから、成績はよくなかった。けど、やればできるんです、大学受験は無理って話だったけど、直前にかなり勉強して大学には現役で合格した」
親子関係でも変わった様子は見られなかった。幼馴染みの友人「Sはお母さん子で、誕生日にプレゼントを買ったりしていた。お父さんにはよく叱られるようで、悪口しか聞いたことがない」明るくひょうきんなキャラで、多少はワルぶっていても快活な少年……そんな人物像が浮かぶ。

中学からのバスケット部を続けた。当時からS容疑者は、好青年という印象を持っていた。「俺たちは高校の時からたばこを吸っていたんですよ。だけであいつは吸わないんだ。別にいじめられていたわけじゃないけど、下っ端という感じだった」

2008年4月～2012年3月 大学時代

中堅の私立大学教育学部に進学、初等教育専攻。
近所の人に「父が教員だから自分も教員になりたい」と語っていた。
2008年大学1年夏頃 八王子市内の学童保育で指導員補助のアルバイト
大学進学後、行動が無軌道になり、性格にも変化が見られていく。
暴走グループに加わる。「ある日、仲間10人くらいが警察に逮捕されてしまった。少年院に入ったヤツもいましたが、植松君はおとなしいほうで率先してやるタイプではなかった。グループ内で下っ端でした」(バイク仲間の中学の同級生)

大学2年、入れ墨に傾倒し始める。肩のワンポイントから腕、太腿、背中と徐々に広がり、小学校教諭を目指す学生にはありえない姿に変容していく。

「相模原市のクラブへ一緒に遊びに行くようになった。彼は踊るというより、酒を飲んでナンパしていた。」(高校時代の友人)

大麻使用を始める。危険ハーブにも手を出したという友人の証言もある。大麻を栽培しようとしていた。

「好きだったのは脱法ハーブ(危険ハーブ)。いろんなのを試しては『これは決まるな』『こっちはハイになれる』とか解説していました。印象に残っているのは、相模原のクラブ。ハーブ吸って、ハイになって、脱ぎ始めて。ビール片手にテーブルから大勢のお客のいるところにダイブ。お客の服がびしょ濡れになってプーイングでしたが、本人は全く意に介さなかった。その後、脱法ハーブが規制されてみんなが避けるようになって、バレないからって続けていました」

2011年5月末～6月 大学4年生

約1カ月教育実習小学校3学年に配属。水泳の授業で入れ墨を隠すのに腐心。教員採用試験の願書を提出せず。

2012年3月 大学卒業

4月 清涼飲料を扱う運送会社に入社、数カ月後退職。
2012年9月 やまゆり園を経営する「かながわ共同会」の採用試験に合格。
12月採用、「かながわ共同会」の津久井やまゆり園に非常勤職員として就職。
2013年4月 津久井やまゆり園常勤職員。

入所者の手の甲に黒ペンで落書き。入れ墨をしていることも発覚。
2014年秋 相模原市内のキックボクシングジムに入門。その後ほとんど通わず。
入れ墨を見せつけるように、自宅近くを上半身裸で徘徊したり、近所の人を怒鳴りつける

など奇行が見られるようになる。

職場で「障害者は死んだ方がよい」と口走るようになる。

正確な時期は不明だが、両親だけ八王子市内のマンションに転居、一人暮らしとなる。

2015年春頃 友人（26）が言う。「去年の春ごろから、過激な右翼思想やオカルト的な『宇宙からのテレパシーが来る』など真顔で話すようになった」

2016年2月15日 再度衆議院議長公邸に手紙を持参。犯行を予告する手紙。

2016年6月 キックボクシングジム再訪。「格闘技の試合に出る」と言い、7、8回練習した。最期に顔を見せたのは犯行4日前の7月22日。

7月24日 相模原市内の道志川河川敷で中学生の同級生と裸で日光浴。

7月25日（事件前日）相模原市内のファーストフード店の駐車場に車を放置していたとして、津久井署が同署に呼んで注意。

■注：引用ジャーナル

朝日新聞関連記事

- 1) 朝日新聞2016年7月26日夕刊1面「障害者施設19人刺殺」、6面「元職員凶行なぜ」、7面「突然の襲撃『痛い』」記事による。
- 2) 朝日新聞2016年7月27日1面記事「相模原の施設襲撃 19人死亡」、2面記事「凶行 予兆あった」による。
- 3) 朝日新聞2016年7月27日夕刊1面記事「50分で45人襲う 相模原19人刺殺 殺人容疑で送検」、7面記事「奪われた日常 怒り 障害者殺傷事件 被害者の父母」
- 4) 朝日新聞2016年7月28日1面「職員ら手すりに縛る 相模原19人殺害2月の手紙通り」、33面「命の重さ同じなのに」、39面「障害者蔑視就労直後から 容疑者言動2月以降攻撃的に」
- 5) 朝日新聞2016年7月28日夕刊1面記事「『裏口から侵入』供述 相模原19人刺殺 正門側に警備員」、7面「大麻陽性 通報せず 措置入院時 相模原市、県警に」
- 6) 朝日新聞2016年7月31日1面記事「『通報されると思い』逃走 相模原の殺傷 容疑者供述」、33面「カメラ常時監視なし 相模原殺傷、死角から侵入」
- 7) 朝日新聞2016年8月7日33面記事「相模原殺傷事件 負傷者の数27人に訂正」
- 8) 朝日新聞2016年8月8日夕刊9面記事「容疑者 大麻陽性反応 障害者殺傷 事件への影響捜査」
- 9) 朝日新聞2016年8月15日22面記事「『この入所者 話せるか』 相模原殺傷容疑者 犯行時、職員に聞く」
- 10) 朝日新聞2016年8月16日26面記事「植松容疑者を再逮捕 相模原事件 9人殺害の疑い」
- 11) 朝日新聞2016年9月15日1面記事「措置入院市・病院に不備 相模原殺傷 診断や支援検証」
- 12) 朝日新聞2016年9月22日31面記事「容疑者を鑑定留置 相模原殺傷 責任能力見極め」
- 13) 朝日新聞2016年10月26日1面記事「精神指定医89人処分審査 厚労省調査資格巡り不正疑い」
- 14) 朝日新聞2016年11月26日35面記事「相模原殺傷第三者委報告書 園、県に危険情報報告せず」

週刊朝日関連記事

- 15) 週刊朝日2016年8月12日号の記事「“ヘイト 殺人鬼” 植松聖容疑者の虐殺願望」pp. 18-25.

毎日新聞関連記事

- 16) 毎日新聞2016年7月26日夕刊1面記事「19人刺され死亡 未明の障害者施設 相模原26歳元職員逮捕」、6面「首や頭を狙い」、7面「短時間の凶行」
- 17) 毎日新聞2016年7月27日1面記事「障害者施設で19人刺殺」、2面「外部侵入に盲点」、3面「見逃された与兆」、28面「身守れぬ弱者襲う」、29面「首狙う残酷な手口」
- 18) 毎日新聞2016年7月27日夕刊1面記事「障害者殺傷 侵入容易な経路狙う 警備員室避け女性居室から」、7面「障害者殺傷『逮捕されるかも…』 容疑者2月にツイート」
- 19) 毎日新聞2016年7月28日1面記事「障害者殺傷 職員5人縛る 容疑者計画性裏付けか」、27

面「凶行『絶対許せない』」

- 20) 毎日新聞2016年7月28日夕刊1面「相模原殺傷 容疑者2月に言動一変 障害者敵視強める」
「生きる権利同じ」
 - 21) 毎日新聞2016年7月29日1面「相模原殺傷 職員殴り鍵奪う 17人首に致命傷」, 23面「安心・人権どう両立 性急な議論には懸念」, 23面「ヒトラー思想が『降りてきた』 措置入院中」
 - 22) 毎日新聞2016年7月29日夕刊1面「植物片, 大麻と確認 相模原殺傷 容疑者宅で押収」, 9面「防犯対策どこまで 相模原殺傷『地域へ壁』悩む施設」
 - 23) 毎日新聞2016年7月30日25面「相模原殺傷 職員, 物音で異常察知 居室のマイク通じ」
 - 24) 毎日新聞2016年7月30日夕刊9面「相模原殺傷 入所者90人ケアに課題 体育館で生活, ストレス」
 - 25) 毎日新聞2016年7月31日25面「相模原殺傷『身内亡くしたよう』」「ハンマー前日購入か 容疑者供述 刃物5本は『自宅から』」
 - 26) 毎日新聞2016年8月1日23面「襲撃後コンビニに 相模原殺傷 容疑者, 洋菓子購入」
 - 27) 毎日新聞2016年8月1日夕刊6面「『やまゆり園』開所から半世紀」
 - 28) 毎日新聞2016年8月2日25面「相模原殺傷1週間 回復祈る家族」「帰る場所はこの施設」
 - 29) 毎日新聞2016年8月2日夕刊9面「相模原殺傷 入れ墨や大麻使用自慢 友人ら特異さ指摘」
 - 30) 毎日新聞2016年8月3日27面「容疑者に生活保護費 相模原殺傷 市内居住を把握」
 - 31) 毎日新聞2016年8月5日30面記事「施設職員6割心に傷 相模原殺傷 専門家派遣シケア」
- サンデー毎日関連記事
- 32) サンデー毎日2016年8月14日・21日合巻号の記事「植松容疑者魔物の闇 これはテロだ!」
pp. 18-22.

読売新聞関連記事

- 33) 読売新聞2016年7月27日1面記事「障害者施設19人刺殺」, 3面「兆候数々凶行防げず 相模原19人刺殺 殺人示唆し措置入院 植松容疑者13日間で解除」, 34面「大量の血『助けて』」, 35面「弱者犠牲『許せぬ』」
- 34) 読売新聞7月28日1面「容疑者言動2月に急変 職員5人縛り犯行」, 3面「措置入院 退院後甘い日本」, 10面「検証・相模原19人刺殺事件 不可解な手紙どう読み解く」, 11面「相模原刺殺 識者の見方」, 36面「意識回復後『助けて』」, 37面「入所者に落書き 相模原刺殺容疑者 入れ墨隠さず勤務 施設側何度も指導」
- 35) 読売新聞7月29日1面「障害者の親『共生』願い 相模原刺殺『同じ思い』絶えぬ献花」, 2面「17人首に致命傷」
- 36) 読売新聞2016年7月30日32面記事「相模原刺殺 入所者心のケア課題」
- 37) 読売新聞2016年7月31日31面記事「相模原刺殺 出頭前コンビニ寄る」

■引用文献

- American Psychiatric Association. (2013) *Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Fifth Edition: DSM-5*. Washington, D.C: American Psychiatric Association. (日本精神神経学会日本語版用語監修 高橋三郎・大野裕監訳 染谷俊之・神庭重信・尾崎紀夫・三村将・村井俊哉訳 2014 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院)
- 石川満 (2016) 相模原事件の背景と自治体・国の責任 藤井克徳・池上洋通・石川満・井上英夫編 生きたかった—相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの— 大月書店 pp. 76-97.
- 今西憲之 (2016) 植松容疑者が大量殺害に至った軌跡 創10月号, 46(9), 42-47.
- 香山リカ (2016) 精神科医の立場から相模原事件をどう見るか 藤井克徳・池上洋通・石川満・井上英夫編 生きたかった—相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの— 大月書店 pp. 53-65.
- 衣笠幸隆 (2014) パーソナリティ障害と重ね着症候群 精神科治療学, 29 (7), 899-904.
- 宮川充司 (2016) DSM-5による素行障害と反社会性パーソナリティ障害—自閉症スペクトラム障害

との併存例の鑑定を巡る― 梶山女学園大学教育学部紀要, 9, 63-75.

宮川充司 (2017) 「重ね着症候群」と ADHD 教育と医学, 763 (2017年1月号), 34-43.

渡部和成 (2015) 専門医がホンネで語る統合失調症治療の気になるところ 星和書店

■引用サイト

平成24年度(平成23年実施)神奈川県・相模原市教員採用試験募集概要(教員 STATION サイトによる <http://www.kyoshi.jp/entries/607> 2016年9月1日アクセス)